

社会福祉法人 千晶会  
**わ~くす城南**  
夢つむぎ城南（愛称）  
盛岡市神明町8-4

# 移動販売で 高齢者を見守りながら 食と安心を支える



移動販売の車体デザインは、県社協障がい者就労支援センターのアドバイザー派遣事業を活用。「わんこきょうだい」を作成したデザイナーのオガワラユウダイさんか手掛けました



買い物をするA子さん（上）と、きれいに陳列された商品



佐藤幸男施設長

普段置いていない商品は、事前に注文いただければお届けです。

販売車内には野菜、魚、肉などの生鮮食品をはじめ、米、味噌、豆腐、納豆、パン、飲料品、それに日用雑貨品など約80アイテムが積まれています。お客様のニーズに合わせたという品揃えは、まるで小型の移動スーパーのようです。

佐藤幸男施設長は「高齢者の安全安心な暮らしを支える移動販売事業は、社会福祉法人の地域貢献のひとつと捉えています。同じ市内でも中心部・山間部と地区ごとに抱える課題は異なりますが、高齢者の買い物支援と見守り活動を行う移動販売は、これからの大切な『仕事』と考えています。いずれは市内全域に訪問範囲を広げたい」と話しています。

## 民生委員がバッくアップ

高齢化の進行に伴い、都市部、山間部を問わず、自宅近くに商店が少ない、移動手段がない、体調が思わしくない、などの理由から、生鮮食料品等の日常的な買い物に支障をきたす高齢者が少なくありません。

盛岡市の障がい者福祉施設「わくす城南」（※就労移行・就労継続支援B型・日中一時支援事業では、市地域福祉課と障がい福祉課の指導をいただきながら、日常の見守りや買い物支援が必要な高

齢者を対象に、この4月から市内2地区（太田地区と城南地区）で、試行的に移動販売事業をスタートさせています。

事業の開始に当たっては、事前に2地区の民生委員児童委員協議会や地域包括支援センターと情報を共有し、その後、民生委員と対象となる高齢者宅を訪問。移動販売への理解を得ながら、信頼関係を築き、現在は週2回、2地区合わせて約25人の高齢者を対象に販売しています。

本格的な運行は商品の仕入れや見守りや買い物支援が必要な高齢者宅を訪問。移動販売への理解を得ながら、信頼関係を築き、現在は週2回、2地区合わせて約25人の高齢者を対象に販売しています。

6月初旬を予定しています。  
生鮮食品など80アイテム  
移動販売車（保冷車）の車体には「地域の高齢者を見守りながら移動販売します。わくす城南」と書かれ、「わんこきょうだい」のイラストが目を引きます。

出発前に商品やコースなどをスタッフと打ち合わせる石川真一副主幹は「移動販売は何よりも安全安心が第一です。皆さんから好評をいただけるようしっかりと実績を積み上げ、障がい者の就労機会を広げ、工賃アップにもつなげていきたい」と話しています。

「買い物はお客様の生活に密着しているので、楽しい会話が生まれます。声がけや見守りをそれとなく意識しながら販売しています」。また、指導員とペアを組む施設利用者は「お客様が楽しそうに買い物をしていると、自分も楽しくなります」と話しています。



移動販売を楽しみにする一人暮らしのA子さん（92）は「決まった日時に自宅近くまで来てくれるの、心待ちにしています。ちょっとした物でも自由に自分で選んで買えるのが楽しい」と笑顔。

様々な理由から外出機会の少ない高齢者らには、自分で買い物ができる楽しみの機会となり、また、対面販売によるおしゃべりが、新たなコミュニケーションづくりにもつながっています。

職業指導員の菊池香奈さんは「買い物はお客様の生活に密着しているので、楽しい会話が生まれます。声がけや見守りをそれとなく意識しながら販売しています」。また、指導員とペアを組む施設利用者は「お客様が楽しそうに買い物をしていると、自分も楽しくなります」と話しています。

佐藤幸男施設長は「高齢者の安全安心な暮らしを支える移動販売事業は、社会福祉法人の地域貢献のひとつと捉えています。同じ市内でも中心部・山間部と地区ごとに抱える課題は異なりますが、高齢者の買い物支援と見守り活動を行なう移動販売は、これからの大重要な『仕事』と考えています。いずれは市内全域に訪問範囲を広げたい」と話しています。